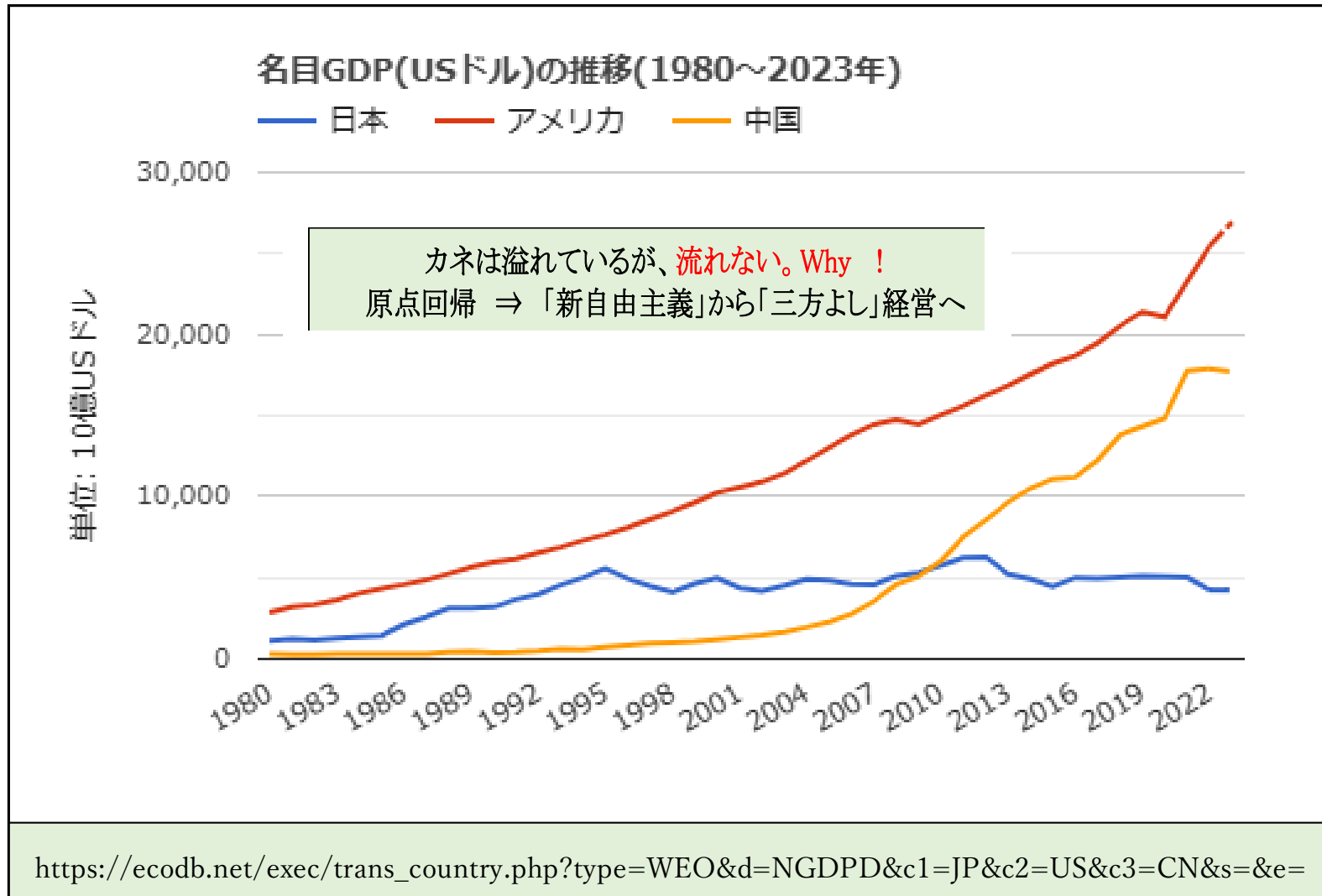


《図表 1》 30 年間の長期デフレ：日・米・中 のGDPトレンド

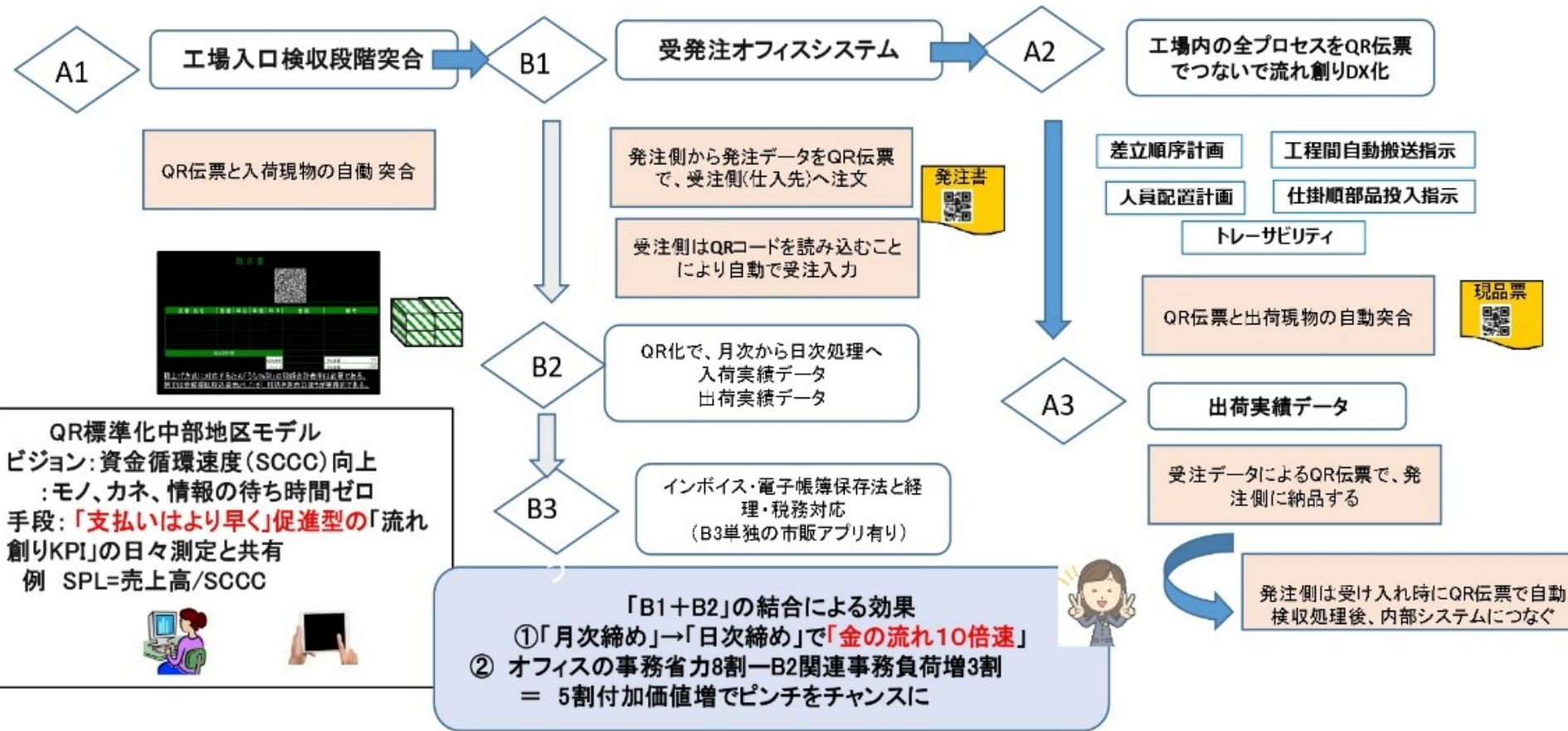


反省力の勝負!

QR標準化中部地区モデル(無料お試し期間つき)

◎ 野村モデル: A1+B1+A2+ A3

◎ 岸田モデル: B1+B2(+B3) (いずれか、或いは両方併せて選択也可)

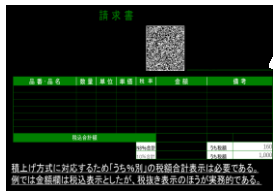


政策提言概要：「中部地区モデル」の先行展開

- ① 工場・事務所で使用するQRデータ規格
全国中小製造業向け標準化提案
- ② 実証実験をもとに、ITベンダー用のQR
化システム標準化提案（Reference Model）

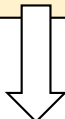
発注側

入荷・伝票現物突合



工場、流れ創りDX化

第1段階の入出荷実績を民間ベンダー（テクノア社他）または「BP+顧客」で工場内をDX化
（先行例：デンソーユートピア、（有）藤工業所、（株）dog）
（ERP既存システム または 自社アプリ開発（USP研））



入出金処理のEDI化（つなぐIT, グローバルワイズ社）

+ 金融機関流れ創りDX・AI化
出荷売上情報から、入出金情報にまでつなげる

トップ経営者が支払いを早める意義が一発で分かるよう、**租税優遇措置等の配慮**。

- ① 政府は官の公共工事「**益暮れ払い**」を、経産省ルールの「2か月以内払いへ」誘導。
- ② すでに2か月以内払い以内の民間企業（トヨタ系他）は、組立合格後、部品業者口座に「**瞬間払い**」のDX・AIシステム



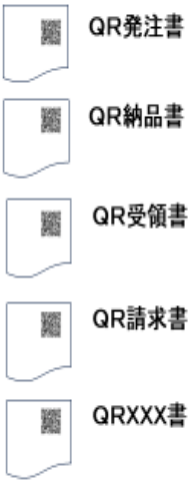
入口から出口までの流れ創りDX・AI化で、日本のデジタル化遅れ挽回と「カネの流れ10倍速」によるデフレ脱出加速へ。

SCCC規格

工場・事務所で利用する書類
のQRデータ規格

2025年XX月XX日

社)SCCCリアルタイム経営推進協議会



	総括表（2014-2016平均）			
	①	②	③	①+②+③
(2014-2016平均)	受取債権	仕入債務	棚卸資産	SCCC 日数
自動車				
トヨタ	28.0	40.2	34.6	102.9
日産	25.5	57.9	47.7	131.2
本田	54.6	43.3	52.4	150.3
マツダ	23.3	55.8	55.1	134.1
重電				
日立	100.9	68.8	69.7	239.3
東芝	83.1	86.5	66.8	236.3
三菱電機	87.7	92.2	77.9	257.7
ゼネコン				
鹿島	120.5	96.4	110.6	317.9
大成建設	10.06	96.2	140	337.9
清水建設	113.3	98.2	105.9	317.7
重工業				
三菱重工業	113.8	98.3	147.2	359.2
川崎重工業	103.2	95.6	152.0	350.8
住友重機械	105.5	93.1	105.9	304.5

政策提言：「プライマリーバランスに代わるスマートKPI「財投効率」

“量 (Volume)” 的概念に、“速度 (Velocity)” 的概念である資金循環速度 (S C C C) を組み合わせ、よりスマートな“健全財政”を可能にするKPI、「財投効率 F (Finance Efficiency)」。(PBは、「単年度の変量不明の二定点差額」で健全財政を意味しない。)

$$\text{財投効率 } F = \Delta \text{GDP} / \Delta \Sigma \text{SCCC}$$

(ΣSCCC は官公庁を含む産業別サンプル企業 1000 社程度の合計値。国、地域、産業、企業別の測定 / 月、四半期、12 カ月別の ローリングによる継続的測定。)

「財投効率 F」は、“PB論が目的とする「ムリ、ムダ、ムラ防止の健全財政」を肯定して、分母の ΣSCCC の「速度」で健全財政の「質」を担保しながら、分子 GDP 増の「量」の健全度を担保する。F 値が多い程、財政健全度の「進化」を意味する。

国民民主党 他 政府筋へのQRコード化アピール方法検討 (3/24pm 野村 河田)

テーマ： 何故、「QRの意義」が分かりにくいのか？、「支払いは早い程、お互いが得」が分かりにくいのか？
「ROE」から抜け出せないか？ 「今のまま症候群からの脱出」(TPSのカイゼン)

主旨： ROE指標（作ってナンボ：量）からSCCC（売れてナンボ：速度）への価値観転換をした方が、
国は勿論、企業も得であることを、経営者簡単に分かる方法

- ① SCCC（モノ、カネのリードタイム）短縮に比例して、名目GDP増経由で、政府は税収増。
租税特別措置法で、法人減税を認めることで、トップが政府の本気度を理解する。
- ② ROE（量志向）もSCCC（速度志向）のいずれも経産省が認めた指標。
流れ創りDX時代の今日、「ROEの信頼度、SCCCで担保する」スマートな資本市場に
役立つことを経営分析で証明する。ROEがよくても、SCCCが悪くなっているケースは、「合法的粉飾」であることを、SPL（リードタイム当り売上高＝S（量）／SCCCで看破。
- ③ 量から速度への価値観転換をムリなく行うツール＝製造業伝票の「QRコード化」をPRする。
（工場入り口ーオフィスー出口ー入出金処理の月次から日次サイクルへ）
- ④ 政府は、“プライマリーバランス”に拠る「緊縮財政・増税」から、「積極財政・減税」への
シフトで、デフレ脱出に動き出す。トランプ相互関税を奇禍として、国を挙げて「カネの流れ10倍速へ」